

いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。10月と言えばハロウィン。USJではハロウィンホラーナイトということで大量のゾンビと仮装した来場者が週末、賑やかに走り回っているそうです。行ってみたいですが、今月はタイトなのでチョット無理かな。さて、10月なのですが、9月に世間でも、自分の中でも大きなニュースがありましたので、それを振り返ってみたいと思います。



タイトルは

「錦織圭」

×かもめのジョナサン

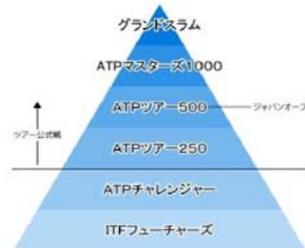
×100 キロマラソン」です。

ハンターハンター風にまとめましたが(笑) 限界に挑戦することについて、その影響等、自分なりにまとめてみたいと思います。

9月。日本中を沸かせたランキングはぶっちぎりでプロテニスプレイヤーの錦織圭選手。何せ全米オープンで、日本人初の準優勝。それまでの日本人の記録はベスト4が最高で、全米オープンで言えば96年前、4大大会でも81年前まで遡ります。イチロー選手が2004年に大リーグの年間最多安打を更新(84年ぶり)したのと変わらないインパクト。ちょっと、調べてみました。グランドスラム(全米・全豪・全英・全仏)と言われる4大大会に出場するにはどうすればいいかを。世界男子テニスツアーはATP (Association of Tennis Professionals) という組織によって管理運営されています。そのツアー



の仕組みは右の図通り。ATPヒューチャーズを序の口と考えれば、日本の大相撲のような感じかも知れませんが、幕下付出の制度はなく、どんな選手でも最初はATPヒューチャーズから始まり、ポイントを獲得してランキングを上げて行き、上層のツアーに参加していくといった仕組みだそうです。つまり、4大大会、グランドスラムに出場しているのは大相撲でいうと幕内力士、いや3役以上での大会といったところでしょうか、、、ではその登竜門であるフューチャーズのレベルでどのくらいかですが、日本で、インターハイやインカレ出場程度なら、一回戦すら勝てないくらい、、、インカレ優勝クラスでも優勝は難しいようです。学生テニスで相当な実力者でもATPでは、大相撲でいう序の口から始まり苦戦するようです。4大大会出場はそのずっと、ずっと先。ここからも、錦織選手の成し遂げた全米準優勝は日本人にとって、尋常ではないことが分かります。錦織選手が今年ここまで飛躍したことの立役者が昨年からコーチになったマイケル・チャン氏。17歳3ヶ月で1989年全仏オープン優勝(最年少優勝記録)ランキング最高2位小柄なアジア系の選手としては異例の名プレイヤー。2011年の震災復興チャリティーマッチでチャン氏と錦織選手は対戦したのですが、その後の対談での彼の言葉から錦織選手の覚醒が始まりだったのかも知れません。対談の数ヶ月前、絶対王



者フェデラー(4大大会16回優勝)に自分のテニスの全てを否定されるような完敗を喫して完全に自信を失っていた錦織選手に、チャン氏はこう言ったのです。



「フェデラー戦であなたはひとつ大きなミス  
を犯しましたね。準決勝後のインタビューであなたはこう  
言いました。「フェデラーと  
決勝で対決するなんてワクワク  
します」と。「彼は偉大な  
選手で昔から私の憧れの選手なのです」と。あ  
なたの過ちはそこです。なぜなら、フェデラーと  
の決勝に進んだことであなたはある程度満足し  
ていた。コートの外で誰かを尊敬するのは構い  
ません。しかし、コートに入ったら「お前は邪魔な  
存在なんだ」と言い切る決意が必要なんです。  
「優勝するのはおまえじゃない！俺だ！」という  
気持ちでなければ戦う前に負けています。」

そしてコーチに就任したチャン氏は、体格差で負ける欧米選手に勝つためには何をすればいいのかをその答えを錦織選手に伝えていきます(錦織選手より背の低いチャン氏なので説得力がありますよね)その答えがトップクラスの選手には異例の基本の反復練習。基本の練習を徹底的に行うことで肉体・精神面を強化。そしてこの反復練習で重視したことは「頭を使ったプレー」、ショットの強化以上に大切なこと、それは「勝つ方法」を見つけること、、、チャン氏に錦織選手は勝つためには何をすればいいかを常に考えてプレーすることを叩き込まれたのです。もちろん常に「自分が一番だと思わないとダメなんだ」と強く言われな



から、そして錦織選手は本当に自分のことを信じていることができるようになったのでしょ。そこから身につけた強さから出てきたのが、全米準決勝でジョコビッチに勝利したあとのこの言葉。

「勝てない相手はもういないと思う」  
決勝では残念ながらチリッチに負けるのですが、向こうも登り調子の選手。今後いいライバルになっていくのでしょ。チャン氏と出会い、自分の限界を超えた錦織選手の今後楽しみです。

さて、次は特にライバルがいるわけではないけど、スティックにスピードを極めたかもめの話です。そう、第4章が追加され完成版とし40年ぶり  
発行された「かもめのジョナサン」についてです。1974年に発行された際には120万部のベストセラーになったと  
のことですが、僕は



その時には読んでなく、今回、完全版で初めて読みました。餌を得るためだけしか飛ばないかもめたち。そんな仲間たちから離れて食べることもよりも、低空飛行やより早く飛ぶこと、飛ぶという行為自体に価値を見出したかもめのジョナサン。生きることを考えさせられる一冊として当時、ベストセラーになったんだろうと思ったのですが、読んでいくうちによく分からなくなっていきました。速さを極めたと思ったジョナサンに、物理的な速さを求めている間は際限ない、と言われ、長老かもめから「瞬間移動」を伝授されるあたりから、「あれ、ドラゴンボールかいな」と思ってしまう始末で、、、まあ、ドラゴンボールも

修行して、自分の限界を超えて行く話だし、ジョナサンの目が金色に輝きだすくらいなんて、スーパーサイヤ人に良く似てるもので、まてよ、



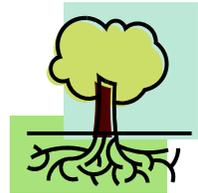
鳥山先生、ジョナサンを参考にしているのではと思ってしまいました。瞬間移動まで極めたジョナサンは神仏化されてしまいますが、ジョ

ナサンはこういい続けます「届かない世界ではない、一日一日の練習の積み重ねで誰もが到達できる場所だ」と。錦織選手の到達した場所は確かに誰もが到達できるような場所ではないですが、スポーツだろうが、仕事だろうが、勉強だろうが、どのような世界でも、「自分とは別の世界(神仏化)」を作ってしまうことはつまらないかも知れませんか。がんばっている人から学ばなきゃいけないのは、自分の中で諦めていた何かを思い出すこと。そしてもう一度やってみることでしょう。商売でもなかなかうまくいかない状況に陥った時、チャン氏の言葉も効きますよね。「ショットの強化以上に大切なこと、それは「勝つ方法」を見つけることだ」ってのがね。

さて、最後に私ごとで恐縮ですが、丹後 100 キロウルトラマラソン完走してきましたp(^.^)q 錦織選手やジョナサンのお話と比べれば、こじんまりしたお話ですが、僕のヒストリーの中では一大ニュースです(笑)。何せフルマラソンも完走したことない状態でのトライ。8月半ばに故障して練習不足でのトライ。不安だらけのトライでした。でも何とかなるもんです。大事なのはやっぱり気持ち。それと冷静な分析と、小さなことの積み重ね。これらのことを一度に学んだ1日でした。



100 キロマラソンと聞くと途方もなく遠いと思いますが、「3.3 キロのマラソンを 30 回」と考えればどうですか? 「ん、それならなんとなくできそうな、、、」って気がしませんか? 実際 100 キロマラソンは 3、4 キロごとにエイド(水分や食べ物を補給できるようコースの途中に設けた施設)が用意されているので、そこに着くと、また次のエイドに向かうといったことの繰り返しなのです。(経営もこれと同じですね。長期目標を立ててそこに繋がる短期の目標を立ててクリアしていく) 走っていると「次のエイドまであと1キロ」なんて表示も出てきます。これに引っ張られて走るんですね(笑)。またいつもそうですが、レースが始まるまでも色々なありがたい出会いがありました。



一番大きかったのが行きのバスで隣の席の年配ランナーからのアドバイス(70歳といっってはりました^^;) 「そうか、兄ちゃん、初めてか? それならええこと教えてあげる

わ。エイドではな、絶対座るなよ! 座ったら、ケツから根生えてくるからな!」この言葉。とても役にたったと思います。そしてもうひとつ教えてもらったのが「残り 30 キロ、20 キロと少なくなってくるやろ、そしたら普段走ってるコースを思いだすんよ。ああ、あとあのコースと同じやとね。そしたら楽になるで!」この指導は一旦使おうとしましたが頭の中から放り出しました^^; 残り 20 キロになった時に「ああ、あと家から日の岬まで往復か、、、おえ、まだそんなにあるん

か、、、あかんあかん」ってね(すみません御坊の人しか分からないですよ 笑)

そんなこんなでなんとか完走できた 100 キロマラソン。もう、フルマラソンの距離に対する恐怖心はなくなっただと思います。無理ちゃうん! ってことに、挑戦する楽しさを十分に満喫できました。次の 100 キロ挑戦は、来年4月に和歌山で開催される奥熊野いだ天ウルトラにしようと思っています。誰かご一緒しませんか? 100 キロマラソンは、ドMな変態レースのジャンルに分類されますが、それなりに練習すれば完走できますよ。ゴールに到着すると感激一入です。何か違う自分になった



ような気さえますよ。今回のよもやまは、自分ではない人が限界に挑戦していること、そして自分の限界に挑戦することから学べることをまとめようとしたが、ちょっと無理があったかな。でもひとつだけ言えることは、「挑戦する勇気を持つこと」その楽しさを生活に取り入れてほしいなということです。「つまらない毎日」なんてありません。「つまらない毎日」にしている自分がいるだけなんだと思います。

### Facebook で見つけた伝えたい話 13

「死ぬときに後悔する 25 のこと」これは、1000 人以上の末期がん患者と接してきた、終末期医療の専門家、大津秀一さんがまとめたものです。私たちの人生の先輩たちは、何を後悔しながら亡くなってい



ったのでしょうか? それを知ることで、今後の人生をよりよいものにできるかもしれせん。

以下、ぜひご覧ください。

1. 健康を大切にできなかったこと
2. たばこを止めなかったこと
3. 整然の意思を示さなかったこと
4. 治療の意味を見失ってしまったこと
5. 自分のやりたいことをやれなかったこと
6. 夢がかなえられなかったこと
7. 悪事に手を染めたこと
8. 感情に振り回された一生を過ごしたこと
9. 他人に優しくしなかったこと
10. 自分が一番と信じて疑わなかったこと
11. 遺産をどうするかを決めなかったこと
12. 自分の葬儀を考えなかったこと
13. 故郷に帰らなかったこと
14. 美味しいものを食べておかなかったこと
15. 仕事ばかりで趣味に時間を掛けなかったこと
16. いきたい場所に旅行しなかったこと
17. 会いたい人に会っておかなかったこと
18. 記憶に残る恋愛をしなかったこと
19. 結婚しなかったこと
20. 子供を育てなかったこと
21. 子供を結婚させなかったこと
22. 自分の生きた証をのこさなかったこと
23. 生と死の問題を乗り越えられなかったこと
24. 神仏の教えを知らなかったこと
25. 愛する人に「ありがとう」と伝えなかったこと

### <名倉コメント>

毎日何か挑戦し続けてたら、死ぬ時も後悔しないかな、なんて思ってたんですが、内容を見ると普段の生活から抜け落ちそうなことも多いですね。でも、「パーフェクトな生き方なんてない」ってこともちゃんと頭に入れておかないとちょっとしんどい気がしますね。